

# 鹿児島市・鶴岡市兄弟都市盟約50周年

## ■サムライのシルク展

11月1日より開催していたサムライのシルク展では、西郷隆盛と菅実秀の交わりや松ヶ岡開墾場の歩みを詳しく紹介しました。県内外の方から鶴岡のシルクと鹿児島の大島紬が一際注目され、興味を持たれる方がとても多く見られました。また、週末には鶴岡シルクと大島紬のコラボ企画として、2つの糸で織って生地にする体験には観光客の方や海外の方も積極的に参加され、「貴重な体験をさせてもらった」と喜んでいました。

維新ふるさとショップでは企画展に伴い鶴岡シルクや大島紬を展示・販売しました。鮮やかな商品を手に取って、お気に入りの一品を選んでいただく機会ができ好評でした。

機織りを体験する  
皆川鶴岡市長▶



## 温故地新

ふる故きを温たずね、地元を新たに。



▲「レッツゴー三傑!コンビニへ行く!」の一場面

## 面白か!維新演劇シアター

維新演劇シアターは、明治維新时期の鹿児島の歴史を身近に感じてほしいと8月から毎週日曜日(9月を除く)に上演しました。上演14回、延べ1,000名余りの市民・県民、観光客の皆様に楽しんでいただきました。

西郷や大久保が登場し、鹿児島弁を織り交ぜながら県外のお客様にも分かりやすく工夫し、鹿児島の歴史を紹介。回を重ねるごとに、会場と一緒になりながら歴史をおもしろく、伝えることができました。

お客様からは「コント風なので歴史が苦手でもとても楽しかった」「子供にもとても分かりやすくてよかったです。6歳の長男が爆笑」「明治の時代に前を向いて歩いて力強く生きていたことがよくわかった」などたくさんの方々の感想をいただいています。

当館はこれからも明治維新を分かりやすく、楽しく伝えています。維新演劇シアター続編もどのような歴史上の人物が登場するのか、どうぞお楽しみに。

## 菊の香、薰る

今年も仙巖園の菊まつり開催にあわせて、当館玄関入り口に菊の花が並びました。



寒さとともに菊のつぼみが徐々に開き、広がり、季節の移ろいを感じただけたのではないかでしょうか。

## ■歴史シンポジウム「サムライの絆」

12月8日(日)、鹿児島市・鶴岡市兄弟都市盟約50周年記念シンポジウム「サムライの絆」を開催しました。今回は、鶴岡の致道博物館から本間豊氏、尚古集成館から松尾千歳館長をゲストに迎え、それぞれの立場から鶴岡での西郷の導きや当時の庄内藩の歴史の流れを薩摩藩と比較しながら解説し、薩摩と庄内の交流が長年継続している背景に白熱した意見が飛び交いました。

会場に来られたお客様からは「当時の庄内藩の様子が手に取るように分かり、歴史にもっと興味が沸きました」「丁寧な解説で非常に分かりやすく、時間が経つのがあっという間でした」「鶴岡に是非とも行ってみたい」とたくさんの方々のご意見をいただきました。



致道博物館学芸部長  
本間豊氏による  
基調講演▶

明治維新を分かりやすく、楽しく

# 維新

ISHIN  
2020 WINTER

維新ふるさと館情報紙/No.31



## 先人を勇気づけ、 癒した桜島

早朝の錦江湾と桜島(鹿児島市城南町)

## 維新を歩く

錦江湾に浮かぶ勇壮で秀麗、日に7度姿を変えるといわれる鹿児島のシンボル、桜島。有史以来活動を続け、今なお噴煙を上げ続ける活火山である。

名前の由来については諸説ある。

10世紀中ごろ、大隅守として京都から赴任してきた「桜島忠信」の名前からとの説。

また、忠信が在府官人らの職務怠慢を糾弾したため郡の役人たちを呼び出したとき、白髪の老人がいることに気づき、前に呼び出すと「老い果て雪の山をば頂けど霜と見るにぞ身はひえにけり」の歌を詠んで奉ったところ、歌に感じ入った忠信は老人の罪を許したという故事から、15世紀末頃の僧・巣松が、その詩で「桜島」の呼び名を用いたとの説もある。

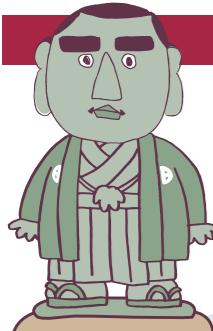
そのほかにも、木花之開耶姫が桜島の五社大明神に祀っており、サクヤ島転じて桜島となったとの説や古代の大噴火のとき、桜の花びらが海面に浮かんだという説などがある。

島津家文書の「旧記雑録」には、島津21代当主綱貴が元禄11年寅12月24日(1699年1月24日)向嶋を桜島と唱え申すべき旨、御意の由仰せ渡せられ候」とあるという。

つまり、桜島は、昔は「向嶋(又は、むかいのしま)」と呼ばれていたことになる。これは5代将軍徳川綱吉に、島蜜柑を献上するに当たって、江戸にも向嶋という地名があるのを考慮して桜島蜜柑と称するようにしたとか、向嶋では「手向かう、刃向かう」と理解されてはいけないと配慮したのだろうなどともいわれる。

名前の由来はともかく、海の中に屹立する雄々しい山容に、勇気づけられ、癒やされ、時代の荒波を乗り越えていった先人を数多くいたに違いない。

年が改まり、新たな希望を抱くに当たってなんとも頼もしいその姿になぞらえて健康で元気な1年を過ごしたいものである。



# 偉人の銅像を歩こう!

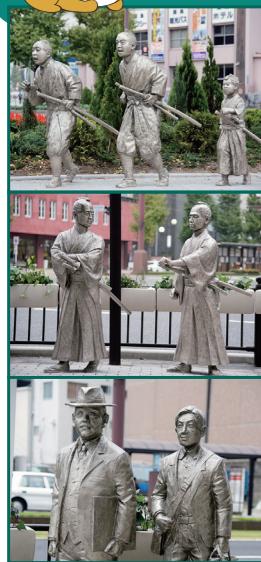
あけましておめでとうござい  
ます。維新ふるさと館は今年も  
“維新伝心”。維新の心を分かりやすく、楽しく伝えて  
まいります。

今月号では、郷土の偉人の銅像を訪ね歩く「維新を  
歩く市街地マップ」を紹介します。お子さんやお孫さ  
ん、お友達と身近な「維新」を訪ねてみませんか？



## 時標 時空の旅 鹿児島まち歩き

鹿児島市内の7ヶ所に鹿児島ゆかりの  
偉人たちの像とその解説板が設置してあります。



①イギリス艦、鹿児島湾に現る

生麦事件の賠償を求めて、文久3年(1863年)イギリス艦隊が現れると大山巖、西郷従道、山本権兵衛らも港へ急いだ。



②樺山、黒田、大いに語る

安政5年(1858年)將軍繼嗣問題で幕府と薩摩は激しく対立、樺山資紀や黒田清隆らは藩や日本の将来について語り合っていた。

③黒田清輝、桜島の噴火を描く

大正3年(1914年)桜島の大噴火が起こると、黒田清輝はその様子を描こうと、弟子とともに港へ向かった。



④龍馬、お龍と薩摩でひと休み

慶応2年(1866年)寺田屋で負傷をした坂本龍馬は、薩摩の温泉で傷を癒すため妻のお龍と日本初の新婚旅行に訪れた。

⑤重豪、薩摩の科学技術の礎を築く

安永8年(1779年)島津重豪は明時館(天文館)を設置、ほかにも医学院設置など明治維新につながる先進性を發揮した。

⑥伊地知、吉井、政変について語る

安政7年(1860年)の桜田門外の変で、幕府は弱体化。薩摩でも伊地知正治、吉井友実、大久保利通ら精忠組(誠忠組)もこの政変をめぐって議論を重ねていた。

⑦ウイリス、高木に西洋医学を説く

医師ウイリアム・ウイリスは明治2年(1869年)に薩摩藩に招聘、医学校校長となり、赤倉病院を創設。英國式近代医学教育を推進、高木兼寛もここで学んだ。

## 偉人像

近代日本の礎を築いた薩摩は、多くの偉人を輩出しました。一人ひとりの像を巡って、歴史を変えていった人々の魅力を再発見しませんか？



A 島津斉彬公像

島津家28代当主島津斉彬は、西洋の近代技術をいち早く導入し、集成館事業を興し富国強兵、殖産興業に努めました。下級武士である西郷隆盛など優れた人材を育成。国旗「日の丸」の提唱者としても知られています。

B 島津久光公像

斉彬の弟である久光(異母兄弟)は、小松帶刀や大久保利通を登用し、斉彬の意志を継いで幕府政治を改革して朝廷と一体となって政治を行なう「公武合体」を推し進めました。

C 島津忠義公像

薩摩藩最後の藩主となった忠義は、薩英戦争後に英國への留学生派遣や斉彬の集成館事業の再興など西洋技術を導入。版籍奉還後には鹿児島藩知事となりました。

D 平田靉負銅像

宝暦3年(1753年)幕府が薩摩藩に命じた揖斐川、長良川、木曾川の治水工事(宝暦治水)の総奉行を務めました。黎明館横の岩崎谷入り口には、薩摩義士の碑が建てられています。

E 西郷隆盛銅像

加治屋町の下級武士(小姓與)でしたが、江戸城の無血開城や薩長同盟、戊辰戦争など新政府樹立に活躍。明治6年(1873年)、朝鮮使節派遣問題で大久保利通らと意見が対立し、鹿児島に帰り、翌年私学校を設立。明治10年西南戦争を起こしましたが敗れ、51歳で亡くなりました。

F 大久保利通銅像

幕末から明治維新の基礎固めまで一貫して中央政界の中心にいて活躍した唯一の人物。欧米視察後に内治優先策をとり西郷らと対立。のち、内務卿となり殖産興業に尽力。西南戦争の翌年、紀尾井坂で石川県の島田一郎ら6人の不平士族によって49歳で暗殺されました。

G 小松帶刀銅像

28歳にして薩摩藩家老となり、島津久光の藩政改革を助けた藩の中心人物。西郷や大久保など下級武士の意見をよく聞き、藩内をまとめ、中央政界では薩長同盟や大政奉還の時など、藩主や國父に代わり藩を代表して交渉に当たりました。

H 五代友厚銅像

幼いころから優れた才能を認められ、藩の英国留学生を率いてヨーロッパに渡り、軍艦や武器、紡績機械などの購入に当たりました。明治維新の後、政界から実業界に移り多くの事業を手がけ、日本の近代商工業発展に大きく貢献しました。



①東郷平八郎元帥銅像

東郷平八郎は、16歳で薩英戦争に参加。戊辰戦争のうち海軍に入り、イギリスに7年間留学。日清戦争では軍艦「浪速」の艦長。日露戦争のときは日本海軍の連合艦隊司令長官としてロシアのバルチック艦隊を破り、勝利を決定的なものにしました。



J 調所笑左衛門広郷銅像

茶坊主から出世して家老になった調所広郷は、藩の財政改革を命じられ、500万両の借金財政を立て直しました。しかし、幕府から密貿易の疑いを受け、その責任をとつて江戸の藩邸で自殺。この財政改革による薩摩藩の蓄財が、のちに明治維新を成功させる財政の基盤となりました。



K 若き薩摩の群像

薩摩英國留学生として参加した17人の薩摩出身の銅像。イギリス商人・グラバーのオーストライエン号でイギリスに留学生を送り、西洋の進んだ文化や技術を学びました。アメリカに渡りブドウ王と呼ばれた最年少13歳の長沢鼎や大阪工商会議所を設立した五代友厚も参加していました。



L 坂本龍馬新婚の旅碑

京都の寺田屋で取り方に囲まれ手傷を負いますが、その治療を兼ね、龍馬と妻のお龍を薩摩藩は鹿児島に招待。これが新婚旅行の始まりといわれています。2人は家老の小松帶刀の別邸(原良)に数日泊まった後、日当山温泉、塩浸温泉、霧島などを巡り、計83日間を鹿児島で過ごしました。



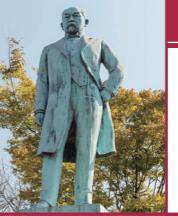
M 川路利良銅像

川路利良は皆与志の郷士の出身で、戊辰戦争で認められ、明治になって渡欧。フランスの警察制度を学んで帰国。初代警視庁大警視(後の警視総監)となり、日本の警察制度を整えました。



N 武町の西郷屋敷跡と「徳の交わり像」

朝鮮使節派遣問題で鹿児島に帰ってきた西郷は、晩年までこの武屋敷で過ごしました。明治3年(1870年)には、庄内藩主以下70名以上の藩士が来鹿。明治8年には庄内藩家の菅實秀(臥牛)がこの武屋敷を訪れ、西郷と親しく交わったといわれています。「徳の交わり像」は、西郷と菅實秀の対談の様子を表現したもの。



O 松方正義銅像

松方正義は、10歳で一家破産、11歳で母を、13歳で父を失いました。そのような境遇の中で文武を極め、島津藩で活躍。初代大分知事就任後、インフレ財政建て直しに功績、明治14年には参議兼大蔵卿に就任。翌年には日本銀行を設立。その後、伊藤、黒田、山縣の各内閣で蔵相を務めました。



P 天璋院(篤姫)銅像

13代将軍徳川家定の御台所となった篤姫(天璋院)は、天保6年(1836年)島津家一門の今和泉島津家に生まれ将軍家に嫁ぎ、大奥を取り仕切りました。将軍後継者問題で苦悩。戊辰戦争が始まると決死の覚悟で徳川家在統を官軍に訴えました。



Q 乃木静子(湯地お七)銅像

乃木静子は、薩摩藩の医師・湯地定之の4女(7人兄弟の末っ子)として生まれ、明治5年(1872年)19歳の時に軍人の乃木希典と結婚。2人の息子を戦争で失っていますが、哀しみを胸に押し込め、国のために役立てたと喜び、涙を流さなかったといわれます。